

庄内森林管理署	
タイトル	森林共同施業団地（候補地） 低コスト間伐 現地検討会
実施年月日	平成25年11月22日（金）
実施場所	山形県鶴岡市羽黒町荒川地内及び天狗森国有林57林班外
参加者	局署：局署：東北森林管理局、庄内森林管理署 11名 外部：山形県庄内総合支庁森林整備課、山形県林業公社、 遊佐町産業課、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、 北庄内森林組合 9名 計 20名
<p>【取組の概要】 森林・林業の再生のためには、民有林と連携した森林整備や低コスト作業システムへの取組が不可欠であり、森林共同施業団地の設定はその推進に当たって重要な手法のひとつである。 このため、現在検討を行っている当署の森林共同施業団地候補地において、現地を踏査しながら制度やこれまでの取組の概要を説明した。 あわせて、団地候補地内で高性能林業機械を導入した間伐事業を実施していることから、低コスト化に向けた取組等について請負者から説明いただくとともに作業状況の視察を行い、最後に全体的な意見交換を行った。</p>	
<p>【取組の成果】 民有林林道と国有林林道を結ぶ計画路線（約1.5km）の起終点を、既存道路を大回り（所要時間約50分）して確認したことで、計画路線の重要性・利便性を認識してもらうなど、民有林と国有林が連携して設定する団地や路網整備の必要性について理解が図られた。 また、スイングヤーダの導入により、通常よりセット人員を減じた作業が可能となるなど、低コスト化への取組についても認識が深まった。</p>	
<p>【出された意見】 ・森林共同施業団地候補地は地形が緩やかなため、効果的な路網整備が可能である。今後もこのような箇所を見つけ、候補地として検討していただきたい。 ・低コスト間伐実施箇所は、林道から近いこと、列状間伐である等、好条件のためスイングヤーダ、プロセッサ等の林業機械を導入できたが、急峻な地形や定性間伐実施箇所では別の作業仕組みの検討が必要である。 【局資源活用課のコメント】 ・森林共同施業団地を設定すれば、民国連携して路網や森林の整備を行える等お互いメリットが大きいため、是非推進していきたい。 ・低コスト間伐を実施する際には、毎日作業日誌をつけることにより無駄を発見したり、機械が遊ばないような作業仕組みを考えることが重要である。 ・平成25年度も労働災害が多発している状況であり、特徴としては重機周辺での接近作業による災害が多いため、今後十分注意されたい。</p>	
<p>【今後の課題】 森林共同施業団地の設定に向けて関係者が綿密に打合せを行ってきたが、協定締結後の事業実施に当たっての連携がこれまで以上に重要であるため、引き続き密接な情報交換を行っていく必要がある。</p>	

タイトル

森林共同施業団地（候補地）
低コスト間伐

現地検討会



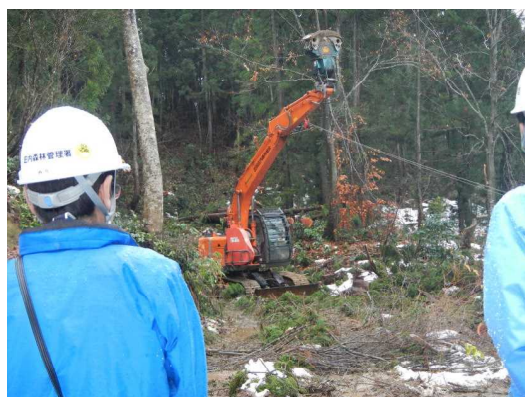
開会の挨拶



路網予定箇所の踏査



国有林との境界で説明



スイングヤーダ-での集材状況



プロセッサによる枝払及び玉切り状況



意見交換等の状況